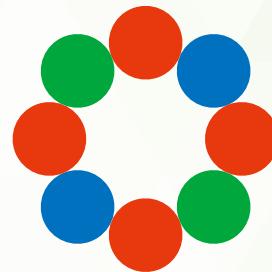


第2次 なんと 南砺市総合計画



2020年3月
富山県南砺市

目 次

第1章 計画の概要	1
第2章 計画策定における基本的な方針	5
第3章 将来像と目指すべきまちの姿	
1. 将来像	7
2. 目指すべきまちの姿	8
第4章 南砺市の現状と課題	
1. 人口ビジョン	9
2. 時代の潮流と地域での取組・課題	11
3. 市を取り巻く状況と課題	13
第5章 財政の見通し	23
第6章 施策の体系	
1. 施策の体系	25
2. 時代の潮流に即した全分野へ横断的に関わる4つの観点	27
第7章 南砺まちづくりプラン	
1. 未来に希望がもてるまち	29
2. 多様な幸せを実感できるまち	32
3. 心豊かな暮らしができるまち	34
4. 皆で考えともに行動するまち	37

第1章 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

南砺市では、2007年3月に南砺市総合計画を策定し、これまで、それぞれの地域において培われた個性や役割を尊重しながら、市の均衡ある発展や一体感の醸成が進むよう各種施策に取り組んできました。

その間、2011年には地方自治法の改正により基本構想の策定義務がなくなり、総合計画の策定やその内容については各自治体の裁量に任されています。しかし、市の進むべき目標や基本的な方向性を示した計画が必要なことには、変わりありません。

近年において、急激な人口減少や少子高齢化の進行、全国的に多発する自然災害の発生、北陸新幹線の開業など、大きな時代の変化や市を取り巻く環境の変化がみられます。また、今後のまちづくりには多様な主体との協働が欠かせないことや、P D C A サイクルなど政策評価への意識の高まりといった社会状況の変化も踏まえ、新たな南砺市の目標を明確にするために、第2次南砺市総合計画（以下「本計画」という。）を策定するものです。

(2) 計画の位置づけ及び構成

南砺市まちづくり基本条例に規定する「まちづくりの主体は市民であること」を踏まえ、市民と行政とが共有できる市の将来像や目標を「南砺まちづくりビジョン（以下、「ビジョン」という。）」と位置づけます。

また、ビジョンを実現するために重点的に取り組む政策や施策を「南砺まちづくりプラン（以下、「プラン」という。）と位置づけます。

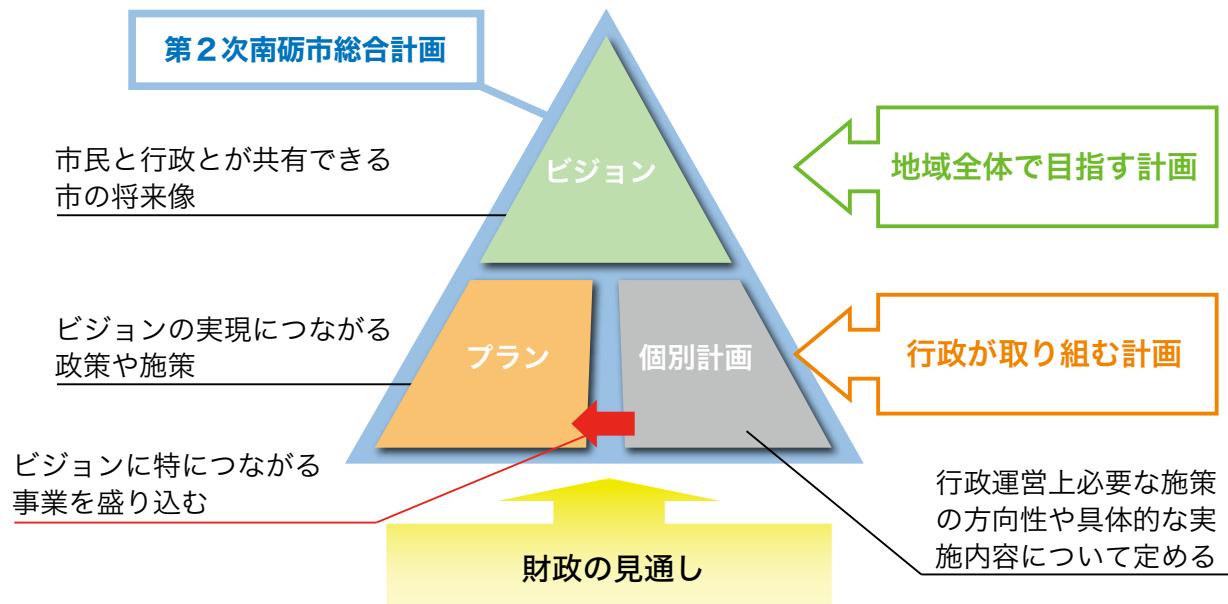
なお、プランに含まれないが行政の役割として欠かすことのできない施策等については、個別計画に基づき実施することとし、それらを合わせた総予算の計画的管理・実施については、「財政の見通し」で裏づけることとします。

(3) 個別計画との関係

本計画で位置づけるプランは、市が実施する施策の中で特にビジョンの実現に重要な施策を集約したものであり、その他の、行政運営上、通常必要とされる施策の方向性や具体的な実施内容については、個別計画に基づき実施することとします。

また、各個別計画においても、本計画のビジョンを踏まえ、整合性を図るとともに、プランとあわせ総合的に実施・推進していくことで、ビジョンの実現を目指します。

第2次南砺市総合計画の構成と個別計画との関係性イメージ



○主な個別計画一覧

■総合政策部

政策推進課
南砺市過疎地域自立促進計画
南砺市地域公共交通網形成計画
エコビレッジ推進課
南砺市環境基本計画
南砺市エコビレッジ構想
一般廃棄物処理実施計画
南砺市SDGs未来都市計画

■総務部

総務課
南砺市地域防災計画
南砺市定員適正化計画
(仮称)南砺市国土強靭化地域計画
行革・施設管理課
南砺市行政改革大綱
南砺市公共施設再編計画

■市民協働部

南砺で暮らしません課
南砺市男女共同参画推進プラン
南砺市空家等対策計画

■ふるさと整備部

建設整備課
南砺市都市計画マスターplan
南砺市道路整備5箇年計画
建設維持課
南砺市道路施設維持修繕5箇年計画
南砺市消融雪施設整備5箇年計画
南砺市公営住宅等長寿命化計画
南砺市住まい・まちづくり計画
南砺市耐震改修促進計画
上下水道課
南砺市水道事業経営戦略
南砺市下水道事業経営戦略
南砺市農業集落排水事業最適整備構想

■地域包括医療ケア部

地域包括ケア課
南砺市高齢者保健福祉計画
福祉課
南砺市地域福祉計画
南砺市障がい者計画
南砺市障がい福祉計画
健康課
南砺市民健康プラン
南砺市地域支えあいのちを守る自殺対策計画

■ブランド戦略部

農政課
農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
南砺農業振興地域整備計画
南砺市田園環境プラン
南砺市食育推進計画
南砺市山村振興計画
林政課
南砺市森林整備変更計画(南砺市森づくりプラン)
南砺市鳥獣被害防止計画
交流観光まちづくり課
南砺市交流観光まちづくりプラン
文化・世界遺産課
南砺市文化芸術振興基本計画
南砺市文化芸術振興実施計画
南砺市世界遺産マスターplan

■教育部

教育総務課
南砺市教育振興基本計画
南砺市いじめ防止基本方針
生涯学習スポーツ課
南砺市子ども読書活動推進計画
南砺市スポーツ推進計画
こども課
子ども・子育て支援事業計画

第1章 計画の概要

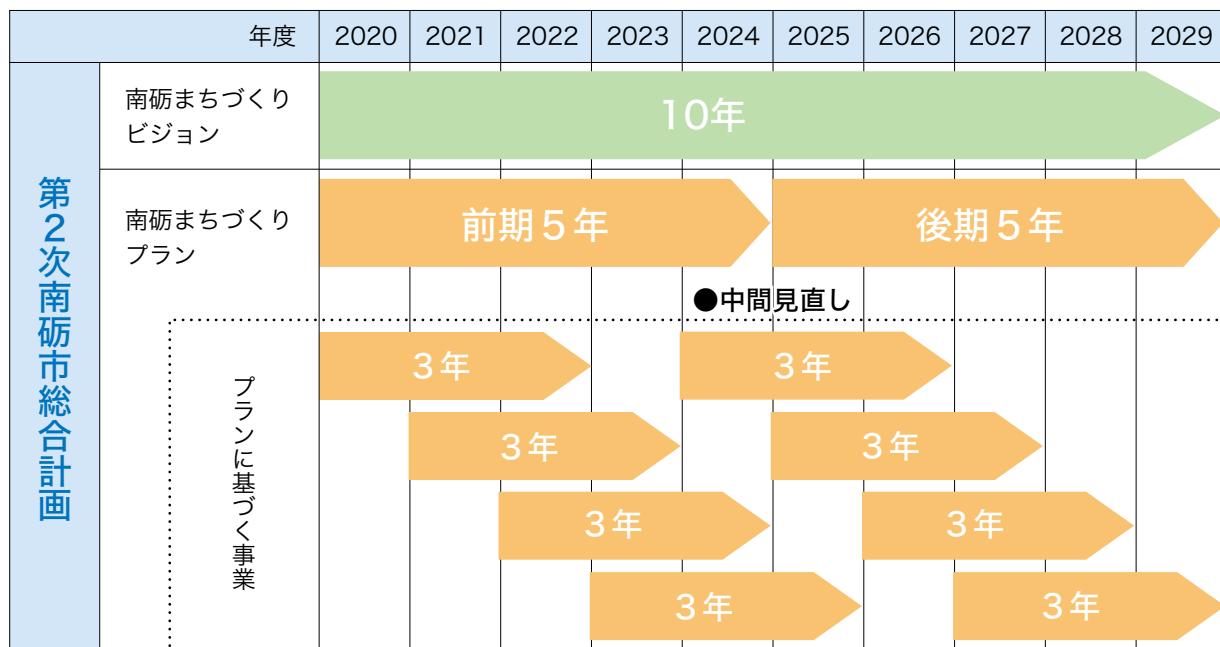
(4) 市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係

総合戦略は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけ、住みよい、活力ある地域を維持していくため、夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することとし、目標や施策に関する基本的な方針をとりまとめた計画であり、本市が2015年10月に策定した「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略」（以下、「南砺市総合戦略」という。）は2020年3月までとなっています。

これまで、第1次南砺市総合計画が人口目標を掲げて取り組んできたこと、本市の総合的な地域振興や発展を目指す上で、総合戦略の目的である人口減少や少子高齢化に対応したまちづくりの観点は最も重要であること、また、総合戦略において実施してきたP D C Aサイクル等は、計画の進捗管理においても有効であること等が明白となっています。このため、本計画では、南砺市総合戦略を引き継ぎ、2020年4月からの第2期市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の南砺市版として位置づけることとします。

(5) 計画の期間

本計画におけるビジョンの対象期間は、2020年4月から2030年3月までの10年間とします。また、プランの対象期間は、前期計画を今後5年間、後期計画を6年目から10年目とします。



なお、プランに基づく事業は3年間の見通しをたて、毎年度評価、検証により見直すこととします。

(6) 推進・検証体制

本計画は、市民や議会をはじめ、産業、行政、大学、金融、労働、メディアなど、幅広い各層の意見を踏まえ策定するものです。

同時に、施策の効果を検証し、改善を図っていくために、次のとおり、P D C Aサイクルと、推進・検証のできる体制の構築を図ります。

① P D C Aサイクルの構築

本計画においては、10年間のまちづくりのゴールとして「数値目標」を掲げています。また、目標を達成するために必要な課題等に対応した「重要業績評価指標（K P I）」を設定するとともに、実施事業にも進捗を図る指標を設定します。これにより、事業の進捗とK P Iの動向を比較することで効果を検証し、事業内容や実施の有無へ反映させる仕組みを構築します。

② 庁内推進体制

市長を本部長とする（仮称）「南砺市まちづくり推進本部」において、横断的に情報共有や事業の検討を行いながら、事業の着実で効果的な実施に取り組みます。

③ 検証体制

本計画では、産官学金労言及び市民等で構成する検証機関を組織し、本計画の推進に当たっての意見聴取のほか、本計画の達成度の検証を実施し、広く公表します。



第2章 計画策定における基本的な方針

本計画の策定に際して重視した基本的な方針を以下に示します。これらの4つの基本方針のもと、南砺まちづくりビジョン及び南砺まちづくりプランの策定を行いました。

(1) まちづくりの主体は市民であること

ビジョンが、市民と行政において共有できるまちの将来像となるように、市民の意見を広く聴くとともに、市民と行政職員が一緒になって、将来像や目指すべき姿などを検討します。

(2) 分かりやすく実効性の高い計画とすること

プランは、ビジョンの実現に有効な施策や事業をまとめた戦略的な計画となるよう、目的と手段という論理的なつながりを重視し、目標から政策、政策から施策、施策から事業という方向で検討を進めながら、実効性の高い計画とします。

(3) 段階的に目標となる指標を設定すること

市民と行政が目標を共有しやすくなるよう、ビジョンでの到達目標、施策における到達目標など段階的な到達目標を明確にするため、指標と目標値を設定します。

なお、指標等の設定に当たっては、根拠やデータ、客観的な証拠を用いることで、その指標や目標の妥当性を高めます。

(4) PDCAサイクルにより常に見直すこと

プランの実効性を高めるため、地方版総合戦略で得た経験を生かし、毎年度、PDCAサイクルによる評価や見直しを行います。

評価は、常に上位指標が向上（改善）することを重視し、上位指標に対して効果があったかどうかを検証し、より良い状態となるよう施策や事業の方向性や内容を見直します。



第3章 将来像と目指すべきまちの姿

1. 将来像

誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ

田園が湖面のごとくきらめく春、熱い鼓動に包まれる夏、哀愁の調べが彩る実りの秋、一面の雪景色に温もりが感じられる冬と、南砺市では、四季を通じて人と自然が調和し、悠久の時間が流れています。

わたしたちの南砺市には、豊かな自然の恵みをいただき、大自然に感謝する心や相手を思いやる「お互い様」の気質といった独自の精神がずっと息づいています。世界が認める合掌造り集落をはじめ、散居景観や伝統芸能、祭、食、ものづくり産業など、かけがえのない財産が数多く育まれています。

また、南砺市で暮らす人々は、奥ゆかしく、温かみがあり、忍耐強く、何事にも意欲に富んでおり、ここに生きる人そのものが、未来へとつないでいかなければならない私たちのかけがえのない財産です。

その一方で、少子高齢化や社会環境の変化など、南砺市を取り巻く様々なことが変わりつつあるなか、これらの財産を後世へと継承していくためには、市民一人ひとりの強い思いとたゆまぬ努力により、積極的に守り育てていくことが不可欠です。特に、自然との共生や環境への意識が高まるなかで、人と人、人と自然の関係を見つめ直し、地域資源を最大限に活用した循環型社会を構築する重要性は増すばかりです。

さらに、情報通信や人工知能（A I）などの技術進歩により、働き方や生き方、価値観などは大きく変わろうとしています。今の暮らしをより快適にしたい、場所を選ばず仕事がしたい、住むところを自分のスタイルで選びたいといった、人それぞれが求める多様な幸せのカタチを実現できる社会を築いていかなければなりません。

このような社会の流れのなかで本市が目指すのは、ここに暮らす人が多様な価値観を互いに認め合い、それぞれが幸せを感じ、「生まれてきてよかった」「住んでいてよかった」「これからも住み続けたい」と思えるまちであり、同時に市外の人に「ともに育ちたい」「住みたい」「つながりたい」場所として選ばれるまちです。

これから10年間は、目指す将来像に向かい市民一丸となって、覚悟をもって取り組まなければならない極めて大切な時期です。自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動していくことが必要です。「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊かさや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「一流の田舎」を目指し、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現します。



2. 目指すべきまちの姿

未来に希望がもてるまち

子どもは家族にとって大切な宝であり、子どもが夢や希望をもち、その実現に向かって成長していく姿は、家族だけでなく地域にとっても大きな希望となります。子どもたちへの教育や子育て環境の充実を図り、地域全体で子どもたちの育みを支える体制を整えるとともに、南砺で家庭を持ちたい、子育てしたいと思う若者の希望に応え、子どもたちが南砺に生まれてよかったと思える、希望に満ちあふれた地域づくりを進めます。

多様な幸せを実感できるまち

地域に愛着をもち、互いに尊重し合い、安心とやすらぎを感じて生活していくことができ、「いつまでも、南砺で暮らしてみたい」と一人でも多くの人に思ってもらえるよう、福祉や医療の充実を図ります。また、年齢や性別、国籍をはじめ、多様な生き方や考え方などを受け入れ、個性を認め合い、幸福感が得られる社会の構築を図り、自身の人生を振り返ったときに「このまちに住んでいてよかった」と思えるような地域づくりを進めます。

心豊かな暮らしができるまち

市民が、豊かな自然や人のつながりのなかで南砺の暮らしを楽しみ、また、若者が南砺に住みたくなるような新たな魅力づくりを進めます。あわせて、ワーク・ライフ・バランスの実現と多様な働き方への支援を図り、都市基盤の充実をはじめ、地域活力を支える産業の振興や後継者の育成に取り組みます。また、市民が暮らしやすさを実感し、市外で暮らす方が南砺に興味をもち、移住や関係人口の増加につながる取組を進めます。

皆で考えともに行動するまち

まちづくりは、そこに暮らす市民一人ひとりの地域を想う心や、相互の支え合いによって取り組まれています。そのため、地域への愛着や誇りの醸成、地域づくりを担う人材の育成を図るとともに、情報共有やコミュニケーションの充実、参加したくなるまちづくり方策を、皆で考えともに行動することで、市民と行政の協働による開かれたまちづくりを推進します。

第4章 南砺市の現状と課題

1. 人口ビジョン

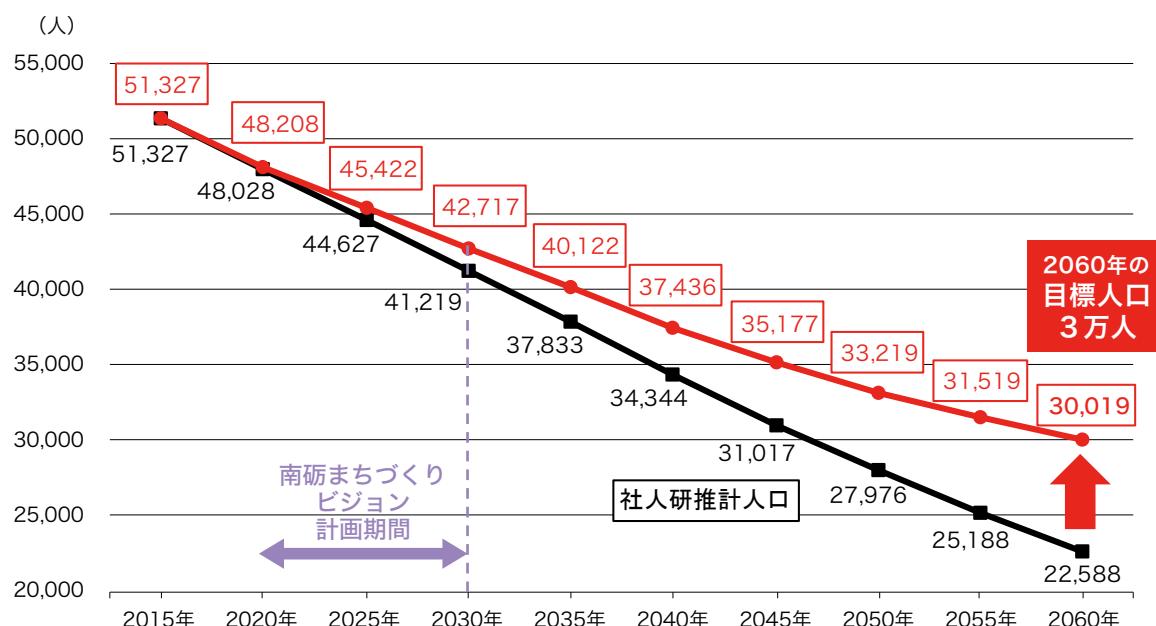
(1) 南砺市人口ビジョンにおける将来目標人口

2015年に策定した南砺市人口ビジョンの目標人口は、2060年に30,000人とし、その目標達成のために、「合計特殊出生率の向上」と「社会動態の改善（転入者数の増加、転出者数の抑制）」を重点に各種施策に取り組んできました。

その結果、転入者数の増加という成果が現れてきてはいるものの、転出者数の抑制に歯止めがかからず、出産・子育て世代となる20代～30代の減少が大きくなっています。2019年現在、目標人口を下回る状況となっています。

全国的にも、出生数の低迷や首都圏を中心とした都市部への人口の集中により、本市の人口動態においても厳しい状況が続いているが、自然動態の面では、国県の長期ビジョンや本市の人口推移も勘案しながら、将来における年間出生数250人での下限を目標とするとともに、近年の健康寿命の伸びを考慮し、高齢者の平均寿命の延伸を図ることとしています。また、社会動態の面では、若者のI J Uターンや移住の促進に加え、これまでの取組により成果が現れてきている「充実した子育て環境の提供」、「移住先としての高い評価」などの本市の強みを活かした施策の推進に取り組むことで、子育て世帯の転入の促進につなげ、2060年の将来目標人口30,000人の実現を目指します。

南砺市人口ビジョンにおける将来目標人口



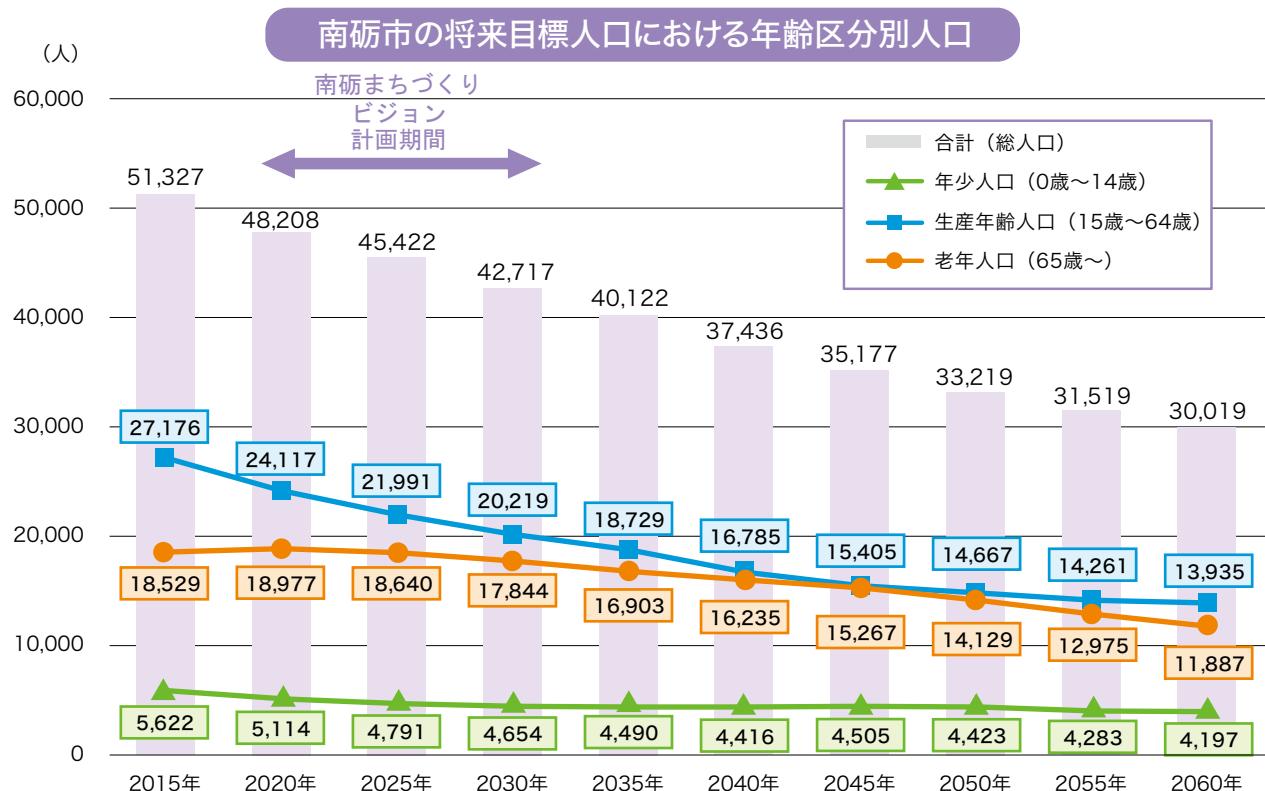
※社人研推計人口：2018年3月に国立社会保障・人口問題研究所から公表されたもの

(2) 年齢区分別人口

人口ビジョンに基づき、南砺まちづくりビジョンの計画期間（2020年から2030年）における将来目標人口及び、2060年までの年齢3区分別の将来目標人口を次のとおり設定します。

区分	2015年 国勢調査人口	南砺市人口ビジョンでの将来人口					
		2015年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
年少人口（0歳～14歳）	5,622人	5,114人	4,654人	4,416人	4,423人	4,197人	
生産年齢人口（15歳～64歳）	27,176人	24,117人	20,219人	16,785人	14,667人	13,935人	
老人人口（65歳～）	18,529人	18,977人	17,844人	16,235人	14,129人	11,887人	
合 計（総人口）	51,327人	48,208人	42,717人	37,436人	33,219人	30,019人	

南砺まちづくりビジョン計画期間



区分	基準人口	出生	死亡	社会移動
人口ビジョン 2060年 30,019人	2015年 国勢調査	合計特殊出生率 2035年 1.94 2040年以降 2.07	社人研生残率に、施策による生残率の向上を反映	2010年～2015年の社会移動状況からの推計値に、政策誘導による施策の効果を加えたもの ※社会増減の均衡 2045年～
社人研推計 2060年 22,588人	2015年 国勢調査	合計特殊出生率 2060年まで 1.47 (成り行き値)	社人研生残率	2010年～2015年の社会移動状況からの推計値 ※2060年まで、社会増減が均衡することはない。

第4章 南砺市の現状と課題

2. 時代の潮流と地域での取組・課題

(1) SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取組

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、日本では2016年12月に「SDGs実施指針」を決定し、「持続可能で強靭、そして誰ひとり取り残さない、経済、社会、環境の統合的の向上が実現された未来への先駆者を目指す」というビジョンを掲げています。

本市においては、経済面、社会面、環境面の三側面をつなぐ統合的な取組として人材育成、次世代教育、文化の継承を支える「南砺の土徳文化、支え合いのまちづくり」、地域の課題解決能力を高める「小規模多機能自治の推進」、地域のお金の循環と未来への投資を促す「南砺幸せ未来基金」を進めることとして、2019年にSDGs未来都市に選定されており、それらの取組との連携は、今後の地域づくりへのエンジンとなります。

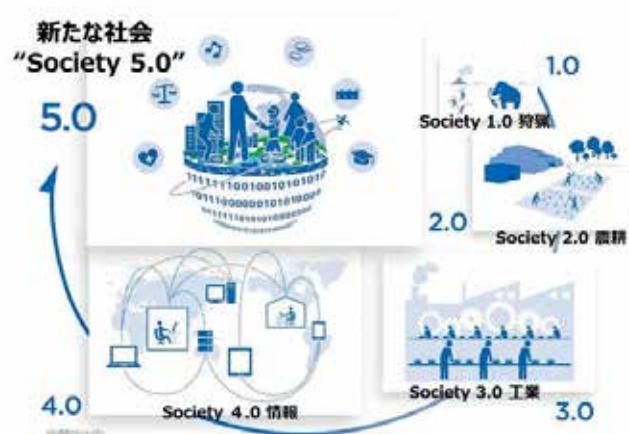


(2) Society5.0への対応

Society5.0とは、狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもので、2016年1月に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」（2016～2020年）において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されました。

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）を目指すものとして、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すとともに、人工知能（AI）により、情報の必要時における提供や、ロボットや車の自動運転などの技術による少子高齢化・地方の過疎化・貧富の格差などの課題を克服しようとするものです。

本市においても、これらの技術を積極的に取り入れ、地理的、時間的制約を新たな技術で効果的に解決するとともに、グローバルな空間とも直結できる利点を活かしたまちづくりが求められます。



(3) 地域づくりへの新たな取組

2012年7月に施行した「南砺市まちづくり基本条例」では、わたしたちが、このまちに「生まれてきてよかった」、「住んでいてよかった」、「これからも住み続けたい」と思えるまちになることを願い、市民一人ひとりが市政に参画し、市民が主体となって協働でまちづくりを進めることを定めています。

また、急激な人口減少や少子高齢化が進行するなかで、地域コミュニティにおける担い手不足や地域の生業での後継者不足が顕著になってきたほか、各地域が抱える課題が多様化していくなかで、様々な主体が参加し、互いに連携を図り、柔軟な考え方で地域の実情に合った対策に取り組むことができる「小規模多機能自治」という新たな住民自治の仕組みが、2019年4月からスタートしました。

今後も、地域コミュニティを持続させていくため、「小規模多機能自治」の手法を用いた課題解決型の住民自治の仕組みが地域にしっかりと根付くよう、継続的な支援を行うことが必要となります。

(4) 地域にあるストック資産の活用

8町村が合併して誕生した本市は、旧町村単位で建設した公共施設を数多く引き継いでいますが、人口が減少していくなかにあっては、全ての公共施設を維持していくことはできません。

2016年に策定した「第2次南砺市公共施設再編計画」では、南砺市公共施設等総合管理計画における財政シミュレーションとして、今後30年間で公共施設面積を約50%縮減しなければ現在の行政サービスの水準を維持することができないとの試算結果も得られています。

今後のさらなる人口減少や市税の減収等を見据え、必要な行政サービスを維持していくためには、「身の丈に合った」公共施設の保有量を見極め、適正に統廃合を行っていくとともに、これらの見直しで不要となった施設は単に取り壊すだけでなく、市の「未来」を創っていく貴重な資産として、積極的に利活用を図っていくことが必要です。

また、本市でも増加傾向にある空き家や空き地についても、防犯上や景観上の観点のほか、土地の適正利用を阻害するものとして社会問題化していることから、これら空き家等の適切な管理を進め、空き家バンクなどの施策を通じて、適切に市場へと流通させる仕組みを構築するなど、積極的な利活用を図っていくことが求められます。

(5) 気候変動影響への適応と大規模災害への備え

近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加や、農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスクの増加など、気候変動及びその影響が全国各地で現れており、さらに今後、長期にわたり拡大するおそれがあります。国内では「平成29年7月九州北部豪雨」や「平成30年7月豪雨」、「令和元年台風19号」など異常気象が頻発しており、本市においても緩和策や適応策に取り組むことが必要です。

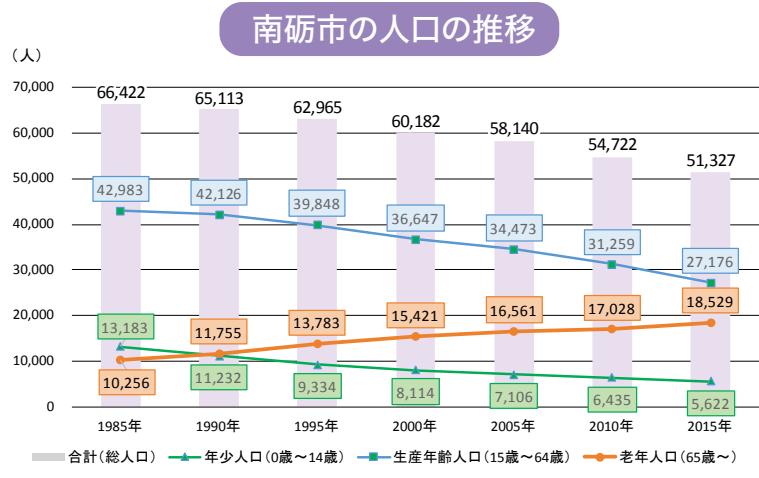
第4章 南砺市の現状と課題

3. 市を取り巻く状況と課題

(1) 南砺市の統計指標

① 人口の推移

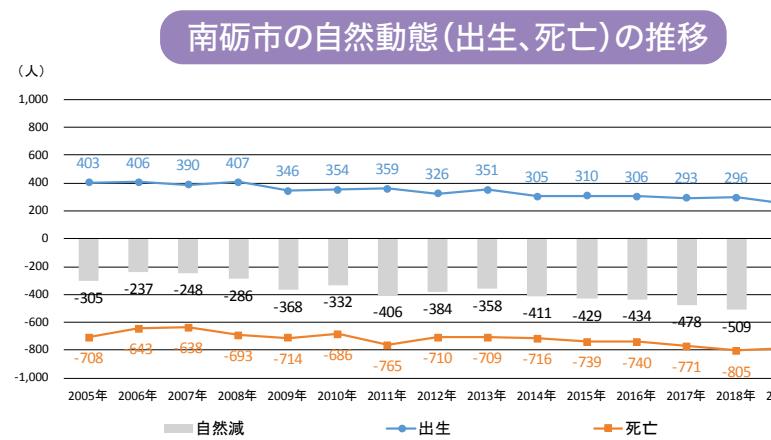
南砺市の人口は減少が続いているおり、直近の国勢調査（2015年）で51,327人まで減少しています。年齢（3区分）別にみると、年少人口（0歳～14歳）及び生産年齢人口（15歳～64歳）は年々減少している一方、老人人口（65歳以上）は増加傾向にあり、2015年現在の高齢化率は36.1%となっています。



出典：国勢調査

② 自然動態（出生・死亡）の推移

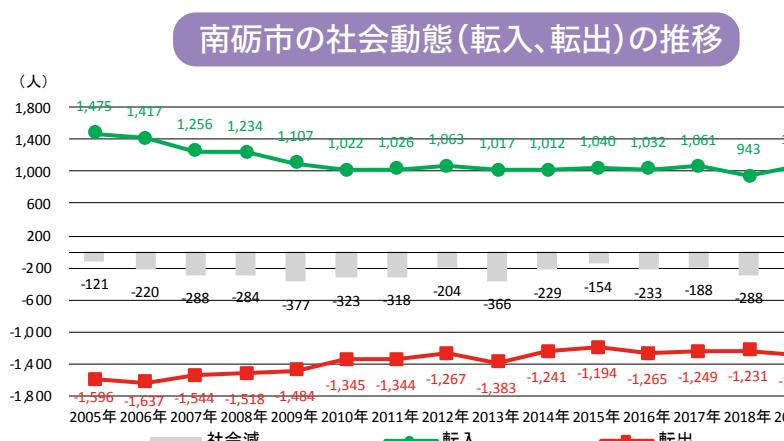
自然増減は2005年以降、常に死亡が出生を上回っており、自然減（出生－死亡）により、近年は毎年400人以上の人口が減少しています。



出典：富山県人口移動調査

③ 社会動態（転入・転出）の推移

社会増減は2005年以降、ほぼ転出超過となっています。近年は150～300人程度の転出超過が続いている。



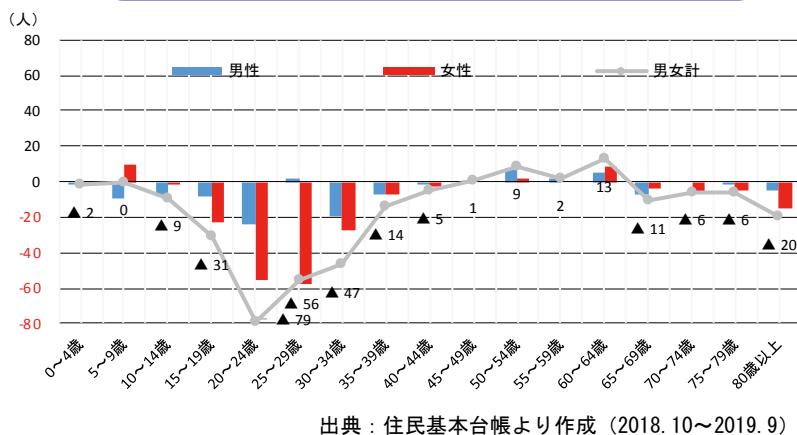
出典：富山県人口移動調査

④ 社会動態の年齢別内訳

直近の社会変動では15～34歳までの転出超過が転出超過数のほとんどを占めています。



南砺市の社会動態(転入、転出)の年齢別内訳



⑤ 商業・工業の推移

商業については、従業者数や販売額は減少が続いています。

工業については、従業員数は2008年から横ばい、製造品出荷額等もほぼ横ばいで推移しています。

南砺市の商業の推移



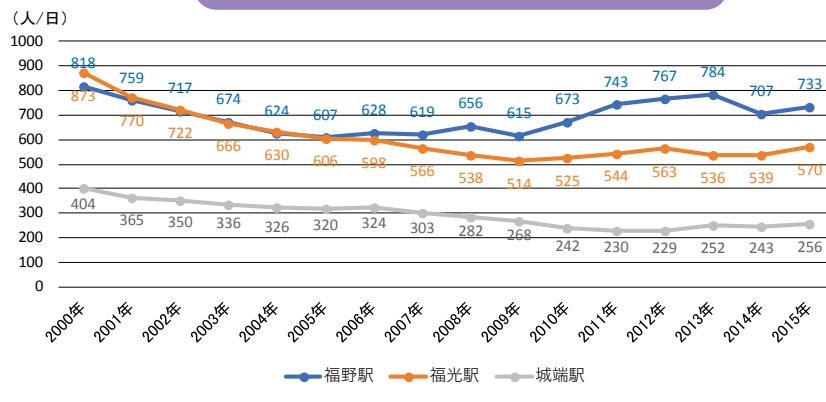
南砺市の工業の推移



⑥ 公共交通(鉄道)の利用数の推移

鉄道の利用者数は、福野駅はやや増加傾向にあり、福光駅や城端駅は2009年頃までは減少していましたが、近年は横ばい傾向にあります。

南砺市の鉄道駅の利用者数の推移



第4章 南砺市の現状と課題

(2) 第1次総合計画の成果と課題

① 計画の進捗状況・改善状況の考え方

第1次南砺市総合計画後期基本計画では、176の成果指標を設定し、その達成率により施策や事業の進捗管理を行っています。

計画期間の最終年度である2019年度の目標値に対し、基準年である2015年度の実績値、中間年度で最もデータの新しい2018年度の実績値を比較した、総合計画の2015年度から2018年度までの進捗率（達成率）及び改善率を以下に示します。

※進捗（達成）率＝直近の実績値（2018）／計画最終の目標値（2019）

※改善率＝{直近の実績値（2018）－計画基準年の実績値（2015）}

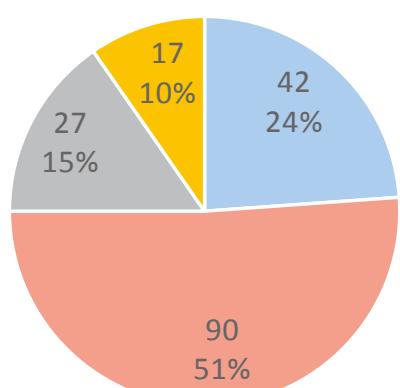
／{計画最終の目標値（2019）－計画基準年の実績値（2015）}

② 全体の進捗状況

進捗率でみた場合、中間年の2018年度で目標値を既に達成した指標（進捗率100%以上のもの）が全体（176指標）の24%となっています。このほかに進捗率が順調に伸び、目標達成間近の指標（80%以上100%未満）のものを勘案すると、概ね3/4の指標において、達成が見込まれる状況にあります。一方で、進捗が思わしくないもの（50%未満）も10%程度となっています。

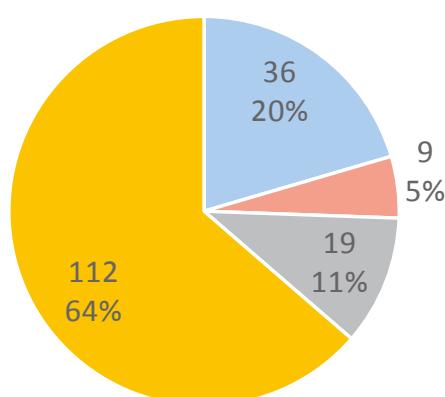
一方、改善率で見た場合、半数以上の64%の指標で50%未満の達成状況となっています。

進捗率の区別別指標数（構成比）



- 100%以上
- 80%以上100%未満
- 50%以上80%未満
- 50%未満

改善率の区別別指標数（構成比）



- 100%以上
- 80%以上100%未満
- 50%以上80%未満
- 50%未満

③ 進捗率や改善率の高い分野と低い分野

進捗率が高い分野として、“美しく住みよいまち”の指標が多く達成している状況となっています。

また、改善率が高い分野として、「消防・防災体制の充実」、「雇用の確保と就業環境の充実」、「市民と行政の協働のまちづくりの推進」が挙げられます。

進捗率(施策区分ごと)

施策区分	進捗率が80%以上の割合
美しく住みよいまち	84%
111自然環境の保全と活用	83%
112エコビレッジ構想による持続可能な社会の構築	71%
113適正な土地利用の推進	100%
121道路網の整備と公共交通環境の充実	100%
122消防・防災体制の充実	83%
123交通安全・防犯対策の推進	100%
124雪に強いまちづくりの推進	80%
125快適な住環境づくりの推進	100%
126地域と調和した景観づくりの推進	67%
127快適な暮らしを支える上下水道の整備	100%
128安心して暮らせる環境衛生対策の充実	100%
131ともに支えあう地域福祉の推進	100%
132障がい者への支援体制の充実	50%
133高齢者福祉のサービス充実	67%
134こころとからだの健康づくりの推進	60%
135安心できる医療の確保	33%
136生活を支える社会保障制度の適正な確保	100%
137子育て家庭への切れ目ない総合的な支援	100%
138子どもを育てやすい環境づくりの推進	100%
創造的で元気なまち	69%
211学校教育環境づくりの推進	57%
212生涯にわたり学べる環境づくりの推進	25%
213生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくりの推進	100%
214文化芸術創造都市の振興	80%
215文化財の保存・活用と伝統文化の継承	50%
221農業の振興と農村の活性化	100%
222林業の振興と山村の活性化	43%
223商業の賑わいづくりと伝統産業の活性化	86%
224豊富な地域資源を活かした観光の振興	100%
225工業の振興と企業誘致、新産業の創出	67%
226雇用の確保と就業環境の充実	57%
227移住・定住対策の推進	50%
228国際・国内交流の推進	75%
開かれたふれあいのまち	69%
311市民と行政の協働のまちづくりの推進	80%
312自ら考え行動するコミュニティ活動への支援	83%
313地域社会を支えるボランティア活動の推進	67%
314人権が尊重される社会と男女共同参画の推進	50%
321情報を自由に活用できる社会の構築	75%
322効果的で効率的な行政経営	40%
323計画的で健全な財政運営	80%
総計	75%

青 : 全ての指標において、2018年度での進捗率80%以上となっている施策分野

改善率(施策区分ごと)

施策区分	進捗率の割合	
	50%未満	90%以上
美しく住みよいまち	60%	22%
111自然環境の保全と活用	67%	33%
112エコビレッジ構想による持続可能な社会の構築	14%	29%
113適正な土地利用の推進	100%	0%
121道路網の整備と公共交通環境の充実	75%	0%
122消防・防災体制の充実	33%	67%
123交通安全・防犯対策の推進	75%	0%
124雪に強いまちづくりの推進	80%	0%
125快適な住環境づくりの推進	33%	33%
126地域と調和した景観づくりの推進	67%	33%
127快適な暮らしを支える上下水道の整備	25%	25%
128安心して暮らせる環境衛生対策の充実	100%	0%
131ともに支えあう地域福祉の推進	100%	0%
132障がい者への支援体制の充実	50%	50%
133高齢者福祉のサービス充実	67%	33%
134こころとからだの健康づくりの推進	80%	20%
135安心できる医療の確保	67%	0%
136生活を支える社会保障制度の適正な確保	50%	50%
137子育て家庭への切れ目ない総合的な支援	75%	0%
138子どもを育てやすい環境づくりの推進	60%	20%
創造的で元気なまち	65%	27%
211学校教育環境づくりの推進	86%	14%
212生涯にわたり学べる環境づくりの推進	100%	0%
213生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくりの推進	100%	0%
214文化芸術創造都市の振興	60%	20%
215文化財の保存・活用と伝統文化の継承	100%	0%
221農業の振興と農村の活性化	60%	30%
222林業の振興と山村の活性化	71%	14%
223商業の賑わいづくりと伝統産業の活性化	71%	29%
224豊富な地域資源を活かした観光の振興	50%	50%
225工業の振興と企業誘致、新産業の創出	67%	33%
226雇用の確保と就業環境の充実	14%	57%
227移住・定住対策の推進	75%	25%
228国際・国内交流の推進	25%	50%
開かれたふれあいのまち	69%	19%
311市民と行政の協働のまちづくりの推進	40%	60%
312自ら考え行動するコミュニティ活動への支援	67%	17%
313地域社会を支えるボランティア活動の推進	100%	0%
314人権が尊重される社会と男女共同参画の推進	75%	25%
321情報を自由に活用できる社会の構築	75%	0%
322効果的で効率的な行政経営	80%	0%
323計画的で健全な財政運営	60%	20%
総計	64%	23%

青 : 2015年度から2018年度までの改善率90%以上の指標が半数以上ある施策分野

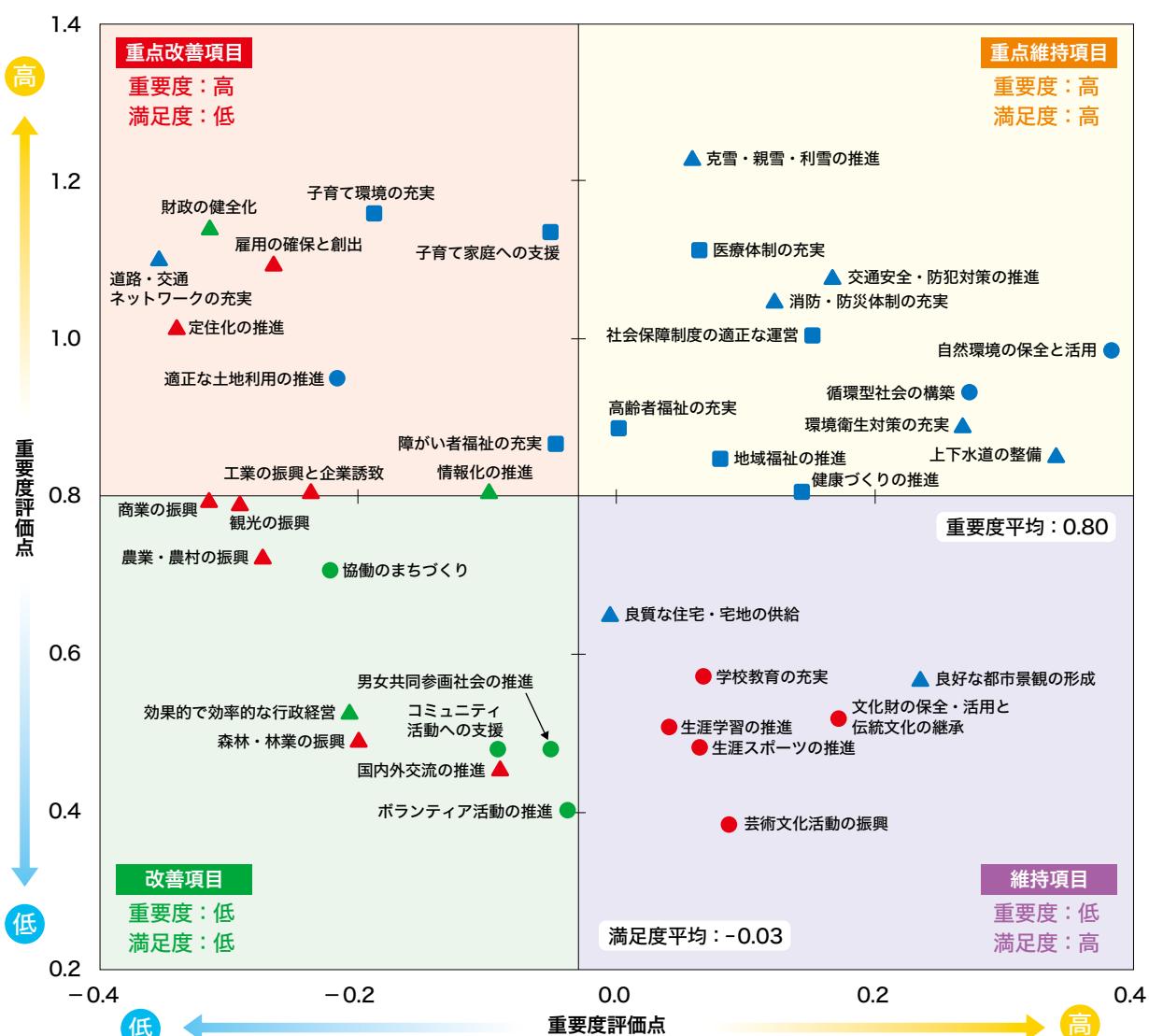
オレンジ : 2015年度から2018年度までの改善率50%未満の指標が半数以上ある施策分野

第4章 南砺市の現状と課題

(3) 市民意識

① 施策の重要度・満足度による分布

「健やかなやすらぎのまちづくり」においては、重要度・満足度がどちらも比較的高い傾向にある一方で、「いきいきとした活力あるまちづくり」は全体的に満足度が低く、特に「定住化の推進」「雇用の確保と創出」は重要度が高い一方で満足度が低くなっています。今後、重点的に取り組むべき施策と言えます。



美しく住みよいまち

- : 自然に優しい住みよいまちづくり
- △: 安全で快適なまちづくり
- : 健やかなやすらぎのまちづくり

創造的で元気なまち

- : 心豊かで創造的なまちづくり
- ▲: いきいきとした活力あるまちづくり

開かれたふれあいのまち

- : 交流と調和のまちづくり
- ▲: 健全で開かれたまちづくり

② 年齢別の重要度・満足度

重要度については、ほとんどの年代で「雪が降っても安心して暮らせるようにする（克雪・親雪・利雪の推進）」が最も重要度が高くなっています。

一方、満足度については、「道路やバスを使いやすくする（道路・交通ネットワークの充実）」が30代以下、40・50代、70代以上で評価が低くなっています。

年代	重要度(ベスト3)			満足度(ワースト3)		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
30代以下	雪が降っても安心して暮らせるようにする	働きながら子育てができるようにする	道路やバスを使いやすくする	道路やバスを使いやすくする	Uターンや移住してくる人をふやす	市のお金を使いこなす
	1.36(+0.13)	1.29(+0.13)	1.22(+0.08)	-0.37(-0.02)	-0.25(+0.09)	-0.24(+0.08)
40、50代	雪が降っても安心して暮らせるようにする	道路やバスを使いやすくする	市のお金を使いこなす	道路やバスを使いやすくする	商売をさかんにする	Uターンや移住してくる人をふやす
	1.26(+0.03)	1.16(+0.00)	1.16(+0.02)	-0.44(-0.09)	-0.38(-0.04)	-0.33(-0.01)
60代	雪が降っても安心して暮らせるようにする	安心して子どもを産めるようにする	市のお金を使いこなす	農業で稼げるようになる	Uターンや移住してくる人をふやす	市のお金を使いこなす
	1.21(-0.02)	1.17(+0.02)	1.15(+0.01)	-0.39(-0.04)	-0.39(-0.05)	-0.38(-0.06)
70代以上	安心して子どもを産めるようにする	雪が降っても安心して暮らせるようにする	市のお金を使いこなす	Uターンや移住してくる人をふやす	商売をさかんにする	市のお金を使いこなす
	1.10(-0.13)	1.07(-0.09)	1.07(-0.07)	-0.38(-0.03)	-0.31(+0.03)	-0.30(+0.02)
総計	雪が降っても安心して暮らせるようにする	安心して子どもを産めるようにする	市のお金を使いこなす	道路やバスを使いやすくする	Uターンや移住してくる人をふやす	商売をさかんにする
	1.23	1.16	1.14	-0.35	-0.34	-0.32

※重要度・満足度の算出について

重要度 大変重要：+2点、やや重要：+1点、今と同じくらい：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

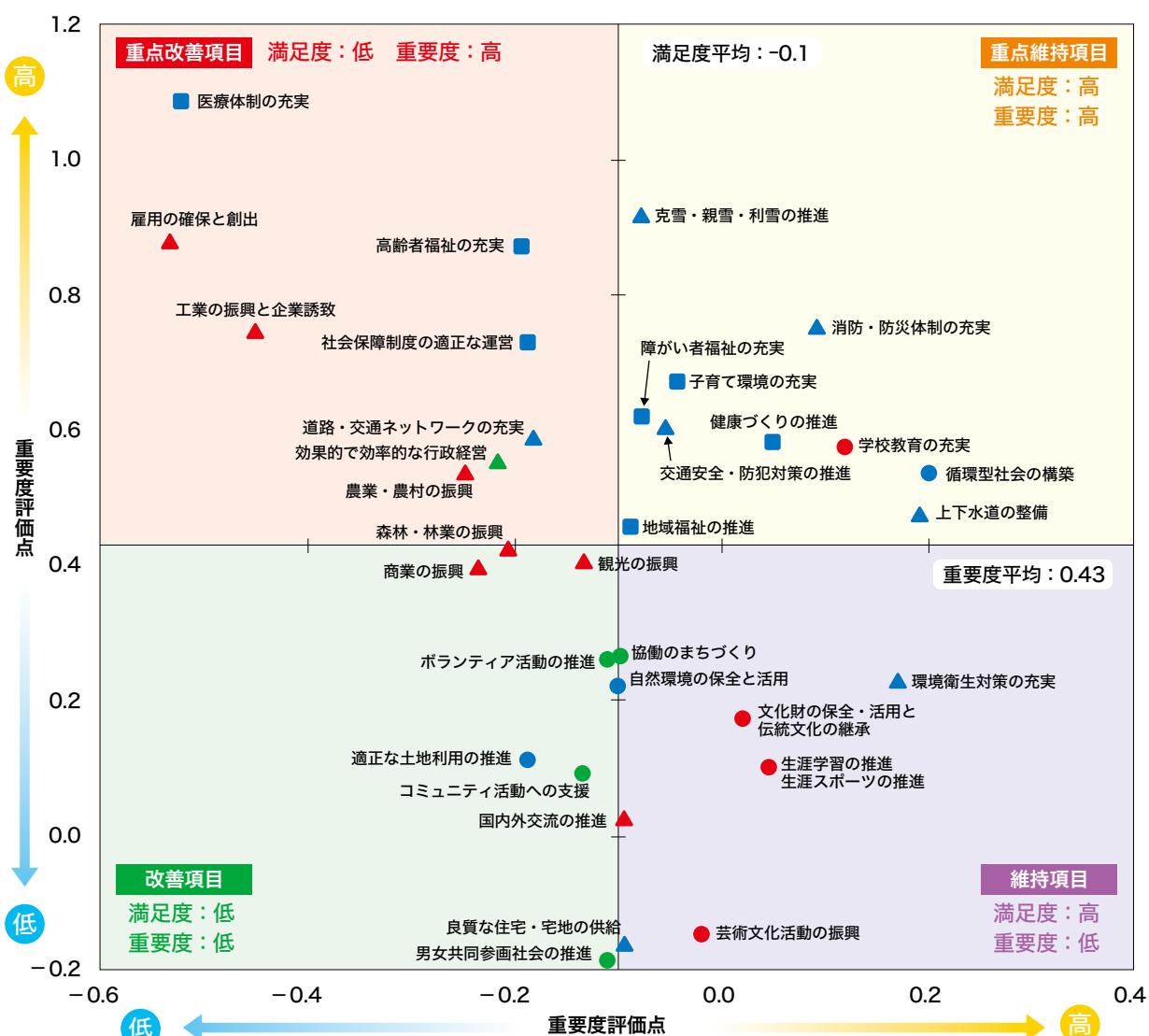
満足度 満足：+2点、概ね満足：+1点、普通：0点、少し不満：-1点、不満：-2点



第4章 南砺市の現状と課題

③過去の重要度・満足度による分布

2010年度に実施した市民アンケートでは、「医療体制の充実」「雇用の確保と創出」「工業の振興と企業誘致」などにおいて、重要度が高い一方で満足度が低い項目となっており、特に「雇用の確保と創出」は、今回（2018年度）実施の市民アンケートでも同様の傾向となっていることから、今後においても改善を図っていく重要な項目と言えます。



美しく住みよいまち

- ：自然に優しい住みよいまちづくり
- ▲：安全で快適なまちづくり
- ：健やかなやすらぎのまちづくり

創造的で元気なまち

- ：心豊かで創造的なまちづくり
- ▲：いきいきとした活力あるまちづくり

開かれたふれあいのまち

- ：交流と調和のまちづくり
- ▲：健全で開かれたまちづくり

④ 重要度・満足度における2010年度調査から2018年度調査での分布の移動分析

○「重要度」が上昇

- ・自然環境の保全と活用：世界的な環境問題意識の高まりから、関心が高まった。
- ・環境衛生対策の充実：上記同様、環境問題への関心が高まった。
- ・適正な土地利用の推進：身近に空き地や耕作放棄地が増えたことから、関心が高まった。

○「重要度」が下降

- ・学校教育の充実：すでに教育環境が充実しており、現状レベルでよいとの意向が全世代で高く、相対的に重要度が低下した。
- ・農業・農村の振興、森林・林業の振興：農林業を身近なこととして感じる方の減少から、全世代での関心が低下した。
- ・効果的で効率的な行政運営：行政への関心が低下した。

○「満足度」が上昇

- ・医療体制の充実：全世代で「概ね満足」の回答が最多であり、十分な医療体制が確保されているものとして評価が高まった。
- ・高齢者福祉の充実：高齢者世代では「少し不満」が多いが、全世代では、充実しているものとして評価が高まった。
- ・社会保障制度の適正な運営：全世代で「概ね満足」の回答が最多であり、適正に制度運営しているものとして評価が高まった。

○「満足度」が下降

- ・子育て環境の充実：子育て世代では「概ね満足」が多い一方、50歳以上に「少し不満」が多い。少子化の影響で、地域の子どもの数が目に見えて減少していることへ不安を感じていることから、評価が低下した。
- ・国内外交流の推進：外国人が市内でも増加しており、日常の交流という面で不安を感じていることから、評価が低下した。
- ・協働のまちづくり：全世代で「少し不満」が最多であり、庁舎統合や公共施設再編といった取組や、小規模多機能自治への移行などに不安を感じていることから、評価が低下した。



第4章 南砺市の現状と課題

(4) 南砺幸せなまちづくり創生総合戦略の総括 (2015~2019)

① 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造（心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現する）

基本目標	施策・主な事業	主な成果
婚姻数を増やす 目標：年間 300 件 当初 267 件 ⇒現状 201 件	【結婚・出産・子育て・教育の支援】 ●若者の結婚活動を支援 • あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト • 婚活応援団なんとおせっかプロジェクト ●妊娠・出産・子育てに切れ目のない総合的な支援 • 南砺市型「ネウボラ」推進事業 • 子育て応援制度	• 婚活カップル成婚：170組（うち市内在住 120組） • 成婚カップルからの出生：81人 • 不妊治療からの出生：4年間で 103人 • ネウボラ事業で対応した相談件数：4年間で 14,332件 • 通所型サービス B型開設：4年間で 6地区 • 育成した介護人材：5年間で 60人（研修受講者数） • 特定健診受診率：62.9%（H29 県内 1位） • 特定保健指導実施率：67.3%（H29 県内 1位）
出生数を増やす 目標：年間 300 人以上 当初 305 人 ⇒現状 289 人		
健康寿命を延ばす 目標：男女とも 1 歳延ばす (男性) 当初 77.97 歳 ⇒現状 79.55 歳 (女性) 当初 82.97 歳 ⇒現状 83.56 歳	【地域共助の確立】 ●高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 • 介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業 • 介護人材育成タウンなんと ●平均寿命と健康寿命 • 「あなたのからだをナビゲート」事業	
課題 ①子育て世代の中心となる 20~30 代の人口減少とともに、出生数が減少 ②近隣他市への転出が一定程度あり、住環境の良さや教育環境の充実度合いなど P R が必要 ③子育て環境の良さは理解されている。働きながら子育てしやすい環境の一層の取組が必要		

② 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造（「やりたいこと」が「できる」地域を実現する）

基本目標	施策・主な事業	主な成果
若者、女性の就業率を伸ばす 目標 75.5% 当初 73.6% ⇒現状 75.8%	【若者と女性がいきいきと輝いて活躍できる環境の整備】 ●起業・コミュニティビジネス支援と就業支援 • 奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業 • 起業家育成支援事業	• 起業家支援制度を活用した起業数：4年間で 37 件 • 女性起業セミナー受講者数：3年間で 86 人
新規起業数を増やす 目標 5 年間で 100 件 当初 15 件 ⇒現状 125 件	【中小企業活性化、創造型産業構築】 ●南砺版エコノミックガーデニングの構築 • 南砺市まちづくりファンド • 企業立地奨励事業小規模事業者応援制度 ●クリエイターの集積による新たな魅力の支援 • クリエイター育成マッチング事業	• 企業立地奨励事業 [投下固定資産額] 4 年間で 35.3 億円 [雇用創出] 4 年間で 41 人 • クリエイタープラザ入居者：59 人（移住者）
南砺ブランド商品年間販売額を増やす 目標：年間 20 億円 当初 18.2 億円 ⇒現状 17.1 億円	【地域の伝統資源の活用、ブランド商品開発】 ●五箇山＆南砺ブランド商品の開発と販売促進 • 南砺ブランド商品開発支援 ●職人育成と伝統工芸の維持 • 伝統的工芸品後継者育成支援事業 • 新規就農支援事業の実施	• 新規就農支援事業による新規営農者数：4 年間で 7 人、うち移住者 5 人 • 伝統的工芸品後継者育成奨励金受給者数：4 年間で 26 人、うち移住者 5 人 • 南砺ブランド商品：首都圏への販路拡大への取組
課題 ①人材不足が顕著。年代、性別、国籍を問わず、働く意欲のある方の就労を支えることが必要 ②ブランド商品や農産物の販売額増に向けて、販路拡大への取組が必要 ③様々な分野で後継者不足が顕著であり、人材育成や継業、事業継承への取組が必要		

③ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造

(地域資源を活用・循環させワクワクする「懐かしい未来」を実現する)

基本目標	施策・主な事業	主な成果
自治会町内会行事に参加している市民の割合を伸ばす 目標 80.0% 当初 78.2% ⇒現状 75.6%	【地域コミュニティの堅持】 ●コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ・総合型自治振興会強化プラン ・なんと市民開催 まちづくり塾支援事業	・地域づくり協議会設立数: 28 地区 (全 31 地区の 90%)
地域資源の活用量を増やす (熱量) 目標 1,700GJ 当初 595GJ ⇒現状 1,513GJ (地場産食材) 目標 40.0% 当初 37.4% ⇒現状 32.9%	【循環型社会と、新たなライフスタイルの構築】 ●木質バイオマスエネルギー等の活用 ・再生可能エネルギー推進事業 ・薪ステーション「木材利用でエコな生活を」 ●地産地消推進による食の自給率向上 ・地場産農作物消費向上事業 ・農・福連携食材活用支援事業 ●南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ・五箇山茅場の造成補助事業 ・「森の学校」の創設	・木質燃料の活用 〔ペレット、薪販売額〕 4 年間で 6,730 万円 〔雇用創出〕 4 年間で 5 人 ・農業と福祉の連携 〔福祉作業所売上額〕 年間 760 万円 (2 割増) 〔賃金〕 1 割増 〔雇用創出〕 4 年間で 3 人 ・市産茅の生産増 〔雇用創出〕 4 年間で 3 人 〔販売額〕 年間 170 万円
縮減公共施設の有効活用面積を増やす 目標 39,000 m ² 当初 0 m ² ⇒現状 3,977 m ²	【中小企業活性化、創造型産業構築】 ●公共施設再編計画の実現 ・公共施設再編後の施設を活用した企業誘致	
課題 ①一人でも多くの市民が地域づくりにつながる活動に参加できる体制を整えることが必要 ②地場産を意識し、市民自らが選んで手に取る意識を醸成することが必要		

④ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造

(ひとに出会い、ひとと深くつながるまちを実現する)

基本目標	施策・主な事業	主な成果
社会動態を均衡にする (年間転入者数: 増加) 目標 1,060 人 当初 1,012 人 ⇒現状 1,048 人 (年間転出者数: 減少) 目標 1,200 人 当初 1,242 人 ⇒現状 1,189 人	【ひとと出会い、ひとを呼び込む】 ●移住定住施策の推進 ・定住促進雇用対策事業 ・定住支援事業 ・山村留学定住事業 ●市民がつながり、交流する仕組づくりの支援 ・三世代同居奨励金及び住宅改修等助成 ・ふるさと教育推進事業 ・南砺金沢線バス運行事業	・定住促進事業の奨励金による新規雇用者数: 4 年間で 73 人 ・移住支援による移住者数: 4 年間で 256 人 ・副業求人の採用者数: 4 年間で 49 人 ・山村留学制度参加者数: 4 年間で 76 人
応援市民の人数を増やす 目標 800 人 当初 0 人 ⇒現状 726 人	【交流人口・貢献市民の拡大】 ●交流観光の推進 ・コンベンション支援事業 ・観光客受入環境整備事業 ●応援市民の拡大 ・応援市民登録制度 ・ふるさと寄附金の推進	・観光客入込数: 354 万人 (H26: 325.6 万人) ・応援市民登録者数: 726 人 ・ふるさと寄附金: 4 年間で 延べ 2,796 件、7,428 万円
連携大学数を増やす 目標 6 大学 当初 0 大学 ⇒現状 6 大学	【大学、民間企業等との連携の推進】 ●高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充 ・官学、官民連携事業	・官学連携による事業数: 4 年間で 42 件
課題 ①人口減少が進む中で、地域を外部から支える関係人口との連携を深める取組が必要		

第5章 財政の見通し

ここでは、本市のまちづくりの指針である本計画で取り組む事業のほか、通常事業を含めた全体の歳入歳出の均衡を図ることを前提に、2020年度以降の財政上の転換期を勘案して、今後の財政見通しを予測します。

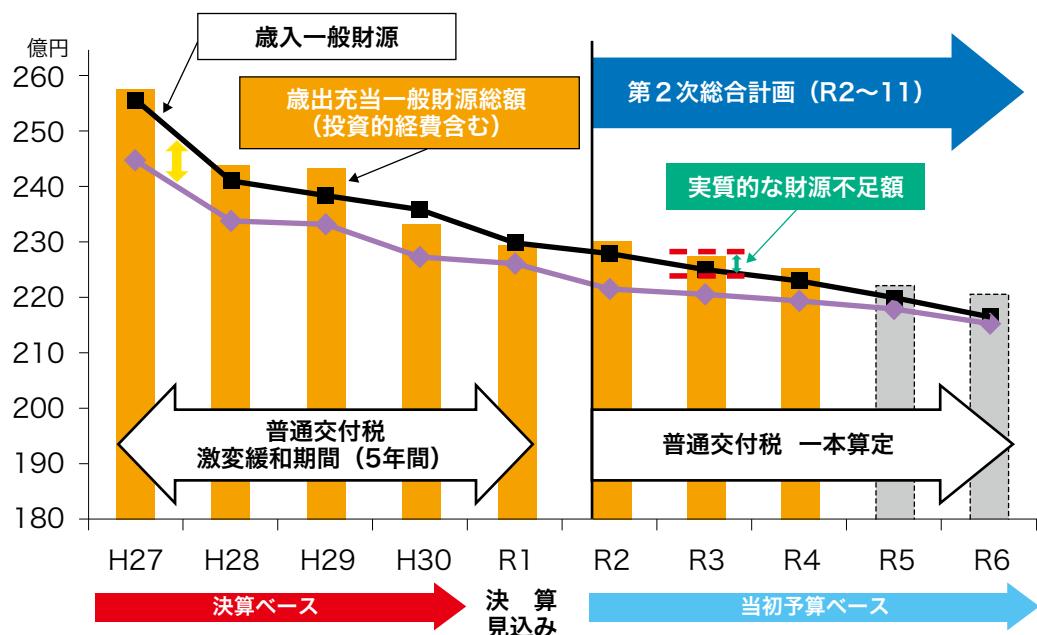
また、本計画の着実な実現を図るとともに、南砺市行政改革大綱及び行政改革実施計画や公共施設再編計画、定員適正化計画等に基づき行財政改革を推進するなかで、効率的かつ安定的な行政サービスを提供し、持続可能なまちづくりを目指します。本財政見通しについては、本計画を財政的視点から補完することにより、計画の実効性を高め、健全かつ安定的な財政運営の指針とするものです。

歳入については、人口減少に伴い市税などの自主財源が減少するほか、合併特例期間の終了や地方交付税の一本算定により大幅に減少することが見込まれます。

一方、歳出については、さらなる少子高齢化の進行に伴い、福祉、保健、医療などの社会保障経費が増加するなど、財政負担がより一層大きくなることが予想されます。さらに、これまで整備してきた公共施設の老朽化に伴う大規模修繕などの多額の維持管理経費が見込まれます。(図1)

今後の財政運営については、世代間の負担の公平性に配慮した地方債の発行や目的に応じた基金の適正な活用により、限りある財源を効果的に活用しながら、市民サービスのあり方も含めたより一層の事業の選択と集中に努め、最小の経費で最大の効果が得られる健全で持続可能な財政運営に取り組んでいく必要があります。

図1 今後の財政見通し(歳入一般財源と性質別経費充当一般財源)



(単位：億円)

項目		H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
A	歳入一般財源	256.0	241.8	238.5	235.8	229.7	228.1	224.9	223.4
	うち普通交付税	133.9	125.9	122.1	120.2	123.5	120.0	115.0	115.0
B	義務的経費、その他経費 充当一般財源	244.7	233.9	233.7	227.3	226.8	221.7	221.1	220.5
C	歳出充当一般財源総額 (投資的経費含む)	257.8	244.2	243.5	233.5	229.8	230.2	227.8	225.2
A - B	投資的経費に充当 可能な一般財源額	11.3	7.9	4.8	8.5	2.9	6.4	3.8	2.9
A - C	実質的な財源不足額	△1.8	△2.4	△5.0	2.3	△0.1	△2.1	△2.9	△1.8
(参考) 財政調整基金残高		60.2	59.4	30.8	34.8	34.7	32.6	29.7	27.9
(参考) 減債基金残高		65.4	65.8	61.1	58.4	60.6	55.4	50.2	45.0
実質公債費比率 (3ヵ年平均)		6.1	4.7	3.9	3.7	4.2	5.1	6.7	7.7

■令和2年度以降における財政見通し（普通会計）については、当初予算ベースで作成しています。事業見込みの変更や公共施設再編計画の進捗等により、その見通しが大きく変動することがあります。

●シミュレーションの前提について

- ①普通交付税は、合併算定替による段階的縮減が令和元年度で終了し、令和2年度より一本算定に変わります。また、令和3年度算定から、令和2年度実施の国勢調査人口が適用されることから、人口減による影響額を△5億円として試算し、令和3年度以降は、同額で推移するものとして試算しています。
- ②将来的な公債費負担の軽減を図るため、減債基金から計画的に繰り入れることとしています。なお、公債費のピークは令和4年度を見込んでいます。
- ③義務的経費のうち、人件費については定員適正化計画に基づく試算、扶助費については平成30年度以降、年率で1%の伸びで試算、また、公債費については、償還計画に基づき計上しました。
- ④第2次南砺市総合計画中、南砺まちづくりプランで取り組む事業については、令和3年度以降、2億円／年の財源（地方創生推進基金）を確保しています。

